

令和6年度 第2回一般介護予防事業評価委員会

一般介護予防事業評価委員会の考え方と今後の評価方法について

令和7年2月7日
高齢支援課 介護予防推進係

一般介護予防事業評価事業とは

名前が一般介護予となっているが
総合事業全体を評価するとなっている

通所C・訪問Bなどサービス・
活動事業も含むということ

一般介護予防事業評価事業 — 地域支援事業実施要綱より

介護保険事業計画において定める目標値の達成状況等の検証を通じ、一般介護予防事業を含め、地域づくりの観点から総合事業全体を評価し、その評価結果に基づき事業全体の改善を目的とする。

その際、PDCA サイクルに沿って、効果的・効率的に取り組が進むよう、介護関連データを活用し、適切かつ有効に行うよう努めること。ただし、地域の実情を把握するための調査の実施にあたっては、介護保険事業計画の評価等を行う上で必要な項目を適切に選定し、調査結果に基づいて評価を行い、計画の見直しを行うこと。また、調査結果について、介護予防普及啓発事業の活用をする等、住民への情報提供に留意すること。

こんな記載も…

地域の実情に応じた効果的かつ効率的な取組を推進する観点から、市町村は定期的に事業評価を行うことが重要である。その際、参加者と非参加者との比較、他の市町村との比較、個人を識別した追跡による効果評価を行うこと等が重要であり、そのための財源として一般介護予防事業評価事業を活用することができる。

総合事業ガイドライン

総合事業については、法第 115 条の 45 の2において、市町村は、定期的に、その実施状況について、調査、分析及び評価を行うとともに、その結果に基づき必要な措置を講ずるよう努めるものとされており、当該調査、分析及び評価事務については、一般介護予防事業評価事業として実施することが可能である。当該評価の実施にあたっては、別添2の「総合事業の事業評価」を踏まえ、適切に行うこと。

地域支援事業実施要綱



つまりこういう事業

目標値設定



調査・分析



達成状況検証



事業改善

一般介護予防事業評価事業

評価・分析を行うための事業

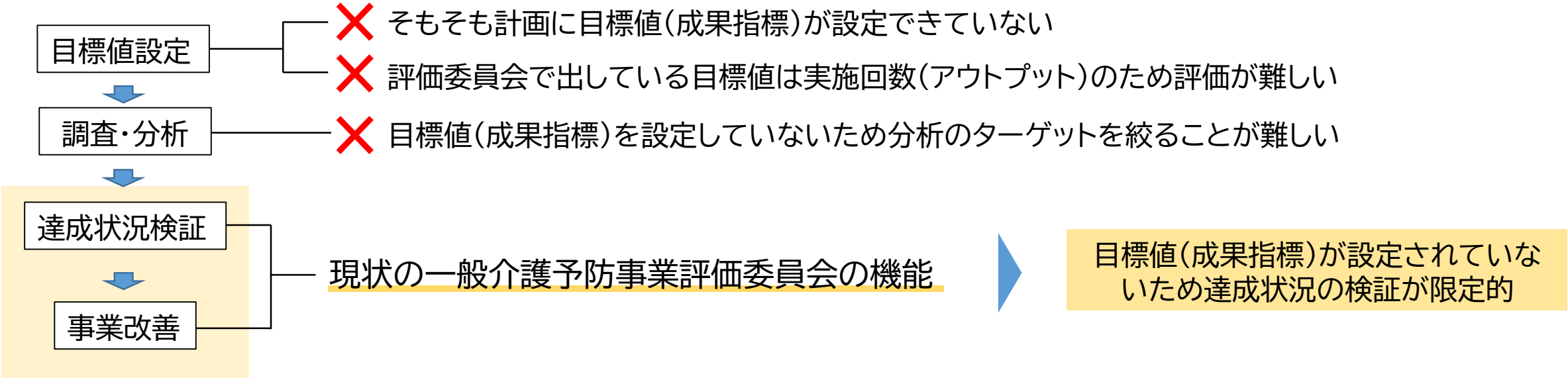
PDCAのための事業

多摩市の一般介護予防事業評価事業



一般介護予防事業評価委員会

一般介護予防事業評価委員会の機能



「目標値設定」と「調査分析」がきちんとできていなければ
一般介護予防事業評価委員会での評価が難しい

評価指標の設定とロジックモデルの活用について

一般介護予防事業評価事業を意味のあるものにするためにも評価指標の設定が必要



何を狙ってどのように事業を展開するかを明らかにするためにも目指す先を明らかにすることが必要

人の入れ替わりがあっても目的を見失わないようにしたい

何を狙ってどのように事業を展開するかを明らかにするために
“ロジックモデル”を活用した事業の実施と事業の評価をする仕組みとしたい

戦略を図式化したもの

ロジックモデルとは

- ・事業やプロジェクト、政策等が成果を上げるために必要な要素を体系的に図示化したもの
- ・成果(アウトカム)、結果(アウトプット)、活動、投入資源(インプット)という大きく4つの要素から構成

期待されるもこと

- ・各事業の目指す成果を明らかにすることで、事業の方向性の誤りを是正
- ・各事業が同じ成果を目指していることを明らかにし、事業の連動性も意識しながら組織的に事業を実施
- ・評価指標の設定と目標値を設定し、結果とのギャップが確認された場合に原因を分析し、ネックに対応した修正をかけていく

今後の一般介護予防事業評価委員会の取組について

・ロジックモデルの枠組みの中で、一般介護予防事業評価委員会では以下の取組を行う

①評価指標の設定

- ・最終アウトカムを含めた各事業のアウトカム・アウトプットの設定に対する意見
- ・ロジックモデルの考え方の確認

②指標に対する実施内容の確認(P)

- ・指標の達成につながる実施内容であるかの確認

③指標に対する結果の確認(C)

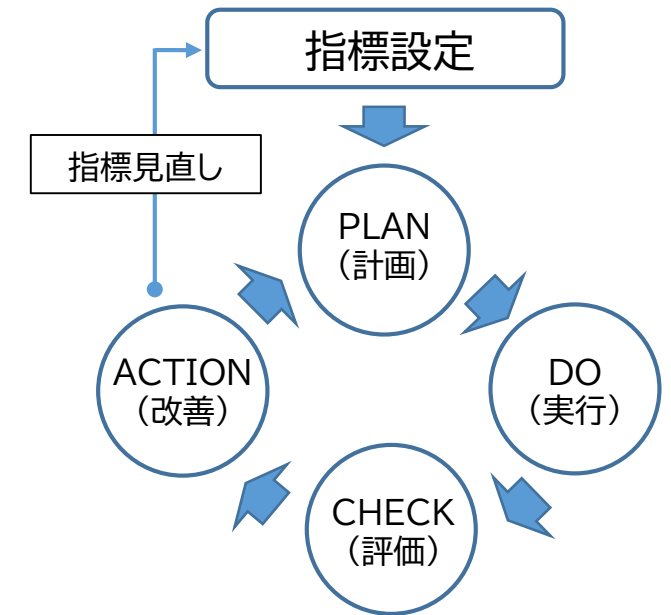
- ・現在の実施結果の報告は実施回数と参加人数を中心とした報告(アウトプットまでの報告)となっているため評価ができている状況でない
- ・アウトカムの達成状況で評価している場となれば、ここが足りないのではとか、ここもやった方がいいのではという意見が上がるはず

④評価を踏まえた実施内容の確認(A)

- ・評価委員会の意見を実施内容に反映できていないのが現状
- ・委員の意見を踏まえた次年度の実施内容に対し意見をもらう

⑤新たに実施を予定する事業の確認(P)

- ・設定したアウトカムにどのようにつながるかの説明
- ・アウトカムを前提としたフィードバックをもらう



ポイント

評価指標(アウトカム)をベースに評価を行ってもらう

➡各事業の課題はアウトカムを達成する上での課題であり、事業のための課題でないことに留意

想定されるスケジュール

P
L
A
N

事業の始まり(計画初年度の前年)

- 5月 指標設定 前年の成果の確認
- 8月 指標確定 高齢者福祉計画確認(案)
次年度実施計画確認(案)
- 2月 次年度計画確認(確定)
高齢者福祉計画確認(確定)

D
O

事業の実施(計画1年目～2年目)

- 5月 前年の成果の確認(指標に基づき講評)
- 8月 次年度計画確認(案)
- 2月 次年度計画確認(確定)

※2年目は実態調査の項目の検討も必要

C
H
E
C
K

事業実施(3年目)

- 5月 中長期の成果の確認(実態調査の結果の確認)
前年の成果の確認

A
C
T
I
O
N

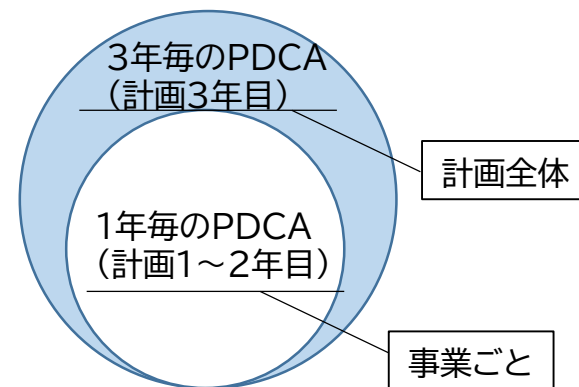
中長期の成果(中間・最終アウトカム)
の確認

3年毎のPDCA

事業ごとの成果(初期アウトカム)
の確認

1年毎のPDCA

PDCAのイメージ

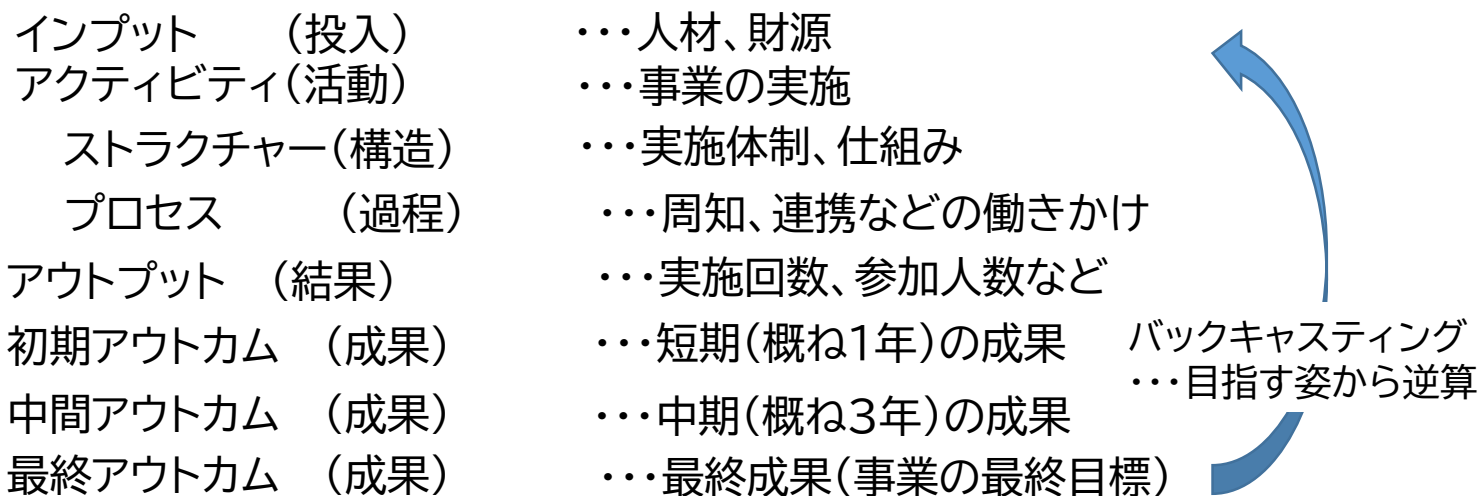


検討事項

- ・実施回数
- ・委員の改選の時期

評価指標の設定とロジックモデル

構成



留意点

- ・プロセスとしての事業もある
(例)地域介護予防教室を増やすためには介護予防リーダーの養成というプロセスが必要など
- ・アウトプットやプロセスはインプットにつながるものもある
(例)介護予防リーダーは地域のボランティアという人材など

考え方

・地域福祉計画推進委員会での意見を踏まえ、「個人」に着目した評価指標と「地域(環境)」に着目した評価指標の二つの視点を持つこととする

・事業の実施が介護予防と生活支援の両側面を合わせていることを踏まえ、「介護予防」の指標と「生活支援」の指標2つの指標を設定する

・データの取得はニーズ調査、見える化システム、KDBシステム、保健者シートなど既存の取組を活用しつつ、一部参加者等へのアンケート調査などから取得することを想定

・定量評価をベースとしながら、一部定性評価を実施する

・指標は、3年に1度のニーズ調査の質問項目をベースにししながら、参考資料に設定されている指標を活用

参考資料

- ・通いの場PDCAサイクル手引き(健康長寿医療センター)
- ・地域支援事業実施要綱
- ・保険者機能強化・努力支援交付金

※全体の評価の考え方については、「介護予防等の「取組と目標」設定の手引き」も参照

今後のスケジュール(案)

年	月	評価委員会	実施内容
令和7年	2月	第2回一般介護予防事業評価委員会	□ジックモデル及び評価指標の考え方について確認
	2～3月		□ジックモデル及び評価指標について「東京都介護予防・フレイル予防センター」等から意見をいただき格子を固める
	4月頃		➡委員改選(任期2年)
	5月頃	第1回一般介護予防事業評価委員会	□ジックモデル及び評価指標の確認を行う ➡1月頃実施する高齢者実態調査の調査項目に反映
	7月頃		健康福祉推進本部で報告
	7月頃～		試行運用開始
令和8年	1月頃	第2回一般介護予防事業評価委員会	令和8年度の事業計画について確認
	5月頃	第1回一般介護予防事業評価委員会	・実態調査の結果を踏まえ、指標に対する成果の確認を行う ・第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画に向けた評価方法、事業見直しの検討を進める
	8月頃	第2回一般介護予防事業評価委員会	第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の内容確認
令和9年	1月頃	第3回一般介護予防事業評価委員会	第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の最終確認
	4月		計画期間開始 ➡委員改選(任期3年?)